

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100078		
法人名	有限会社 プログレス		
事業所名	グループホームあい楠見		
所在地	和歌山市楠見中197-8		
自己評価作成日	平成25年3月18日	評価結果市町村受理日	平成25年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JivgyosCd=3090100078-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成25年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあい楠見は住宅地にあり比較的静かな場所にあります。地域密着型の複合施設で他のサービスを利用して頂いている方とのコミュニケーションや合同での催しで入居者の方の生活が楽しみを持ち、活性化される事で身体的にも精神的にも元気に生活が送れるよう支援しています。又、グループと医療機関が連携することで健康面の不安にも対応しています。ホームでは自宅での生活に少しでも近づけるように入浴は夕食後に実施し入居者の方からも良く眠れたとの声も聞かれます。毎日の食事は栄養管理され本人の嗜好にも配慮しています。おやつは毎日スタッフと一緒に作り楽しみの一つになっています。地域のボランティアの方も来所して下さる方が少しづつ多くなり、今後も地域に密着した施設作りに取り組んでいきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複合介護施設の2階部分にグループホームがある。周辺にはスーパー、小学校、病院があり地域との繋がりが切れない環境にある。同系列法人の医療機関も近くにあり、グループホームとして重度化にも対応、安心して治療が受けられる体制が整っている。また、職員のレベルアップのため、外部研修を受ける機会を多くして、受講した研修内容を日々の実践に繋げている。強い意志と熱意で挑戦し、入居者のその人らしさを引き出す努力をしており、退院後の廃用症候群の防止にも力を入れている。ケアに対する管理者、職員の前向きな意欲が感じられる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設に理念を掲示し職員に意識付けをしている。グループホームでの会議を通し振り返る事で利用者の方個々の暮らしがその人らしい物であるかを検討し近づけるように取り組んでいる。	法人の理念とは別に、事業所独自として「地域と共に歩む私らしい生活を」という理念をリビングに掲げている。「その人らしさ」を追究しながら、管理者と職員は日々のケア現場での実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りの参加、自施設の祭りへの招待などの取り組み、自治会の溝掃除の参加で少しでも地域の施設、一員として交流できる機会を持っている。	地域の一員として自治会に加入し、溝掃除や地域の行事には積極的に参加している。又体操、書道、お琴の演奏等ボランティアの訪問も多く、地域との交流は増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方に来ていただき、認知症の方との触れ合いの中で少しずつ理解して頂き、知識が深められるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では施設の状況やサービスの取組みを聞いていただき、意見を伺うことでサービスの質の向上に取り組んでいる。	2ヶ月に1回の割合で開催され家族や利用者の代表、地域包括職員、医療の地域連携室職員等多方面からの参加がある。会議で出された意見要望を運営に活かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の方の希望やニーズに新たな課題が発生した時には市町村担当者に相談しサービスの検討をしている。	管理者は常日頃から頻繁に行政に出向き積極的に事業所の実情を伝えている。顔の見える関係の中で行政との関係性を密にする機会を作っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し定期的な会議で状況の話し合いをしスタッフ会議等で発表し、職員全体に拘束廃止を周知している。	施設の玄関に「身体拘束廃止理念」として「身体拘束ゼロを目指している施設です」と掲示しており、法人組織全体で取り組んでいる。ホームは2階にあり入り口は開放されている。外に出そうな入居者には職員が見守り支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については勉強会、外部研修の参加等で理解した上で見過ごされる事がないように取り組んでいる。		

【事業所名】グループホームあい楠見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護外部研修は毎年参加し、参加した職員が自施設に戻り他の職員に勉強会で発表し理解を広めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には順をおって丁寧に説明するように心がけている。疑問点がないか確認し、疑問点があれば理解して頂けるように説明の仕方を変えて納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回程度アンケート調査をすることで家族様の意見を聞く機会を設けている。その中から改善点を見つけ出し反映させている。	家族の訪問時や運営推進会議等で、交代職員の紹介や入居者の状況を報告、また無記名のアンケート調査を郵送で実施し、入居者や家族の思いを吸い上げ、運営に反映させる努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議、スタッフ会議等の開催で職員の意見を聞きだし、リーダーや管理者が参加する責任者会議で反映できるようにしている。	4部署会議やスタッフ会議は月に1回、さらに問題発生時に開催している。ホームで抱えている問題の解決については責任者会議にあげ、職員の意見や要望を積極的に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各サービスの管理者、リーダーに個々の職員に対する評価を実施している。その中で個々の仕事ぶりが適切でやりがいのあるものになっているかを把握し改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数に応じた外部研修の参加や自施設のグループの研修、自施設の研修の参加を促し知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の勉強会や交流会に参加する機会を持つ事でサービスの向上に繋げている。又、他事業所に訪問することで学ばせて頂く機会を持つようにしている。		

【事業所名】グループホームあい楠見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時より担当職員を決め本人とコミュニケーションを図っていく中で不安や要望等に気づき安心して暮らせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には本人、家族と面談する時間を持ち、なるべく多くの情報を頂き入所後の生活がスムーズで安心した生活が送れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のこれまでの生活が継続できるように必要な支援の把握に努めている。又、他のサービスが適していると思われる時には家族と話をしながら進めていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で役割を持ち、出来る事は自己にてして頂くように促すようにし、少しの援助で出来る事があれば一緒にする事で介護する、される関係にならないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が施設に来所した時には普段の様子を伝えたり、カンファレンスの開催で家族と一緒に考えるという姿勢を持ち話し合いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設への知人の面会は減少しつつあり、昔の話等から懐かしい場所にドライブに外出する機会を持つようにしている。	入居前の馴染みの店への買物同行や自宅に立ち寄り等、今迄の生活を尊重した支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事や入居者の方の誕生日会を開催しみんなでお祝いすることで利用者同士が良い関係づくり出来るようにしている。利用者同士の談話の時間が持てるように職員が配慮している。		

【事業所名】グループホームあい楠見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居や入院等で退去する時には情報提供する事で連携している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いが伝えられない方にはアセスメントの内容からその人らしさを引出し、そのことが本人本位になっているか行動や言動から検討し改善していく。	自己決定が困難な入居者にはその日の顔つきや様子で判断し、目の前の入居者に対しての視点を統一するようセンター方式のシートも活用しながら思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を元にしながらこれまでの生活環境、暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方が自己決定出来る事を基本にしながら介護者本位にならないように努めている。自己決定の困難な方に対してはその方の能力に応じて職員の関わり方を話し合いながら進めるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスは定期的開催し、家族の参加も願っている。会議での内容は本人の暮らしが良いものになるように課題について一緒に検討している。	業務日誌、支援経過、検温台帳の記録等、きめ細かいケアマネジメントが出来ている。記録方法について検討して取り組んでいるが、内容の把握に時間がかかり、読みづらく感じるところがある。	さらに検討を重ね、センター方式の活用も含め、誰が見ても解かりやすい簡単で明瞭な記録の仕方を見い出せるよう、さらなる工夫を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は時系列に解りやすく記録すると共に、本人の言動や行動が解るように努めている。計画書の見直し時やモニタリングには記録を参考にできるように記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しい課題、ニーズが発生した時にはこれまでにない事に対しても対応できる柔軟な支援が出来るように心がけている。		

【事業所名】グループホームあい楠見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方の協力を頂き、入居者の方が色々な取り組みを実施することで心身の活性化を図り楽しみのある生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には必要に応じてサマリーの作成をすることで適切な医療が受けられるように援助している。	希望のかかりつけ医で、受診は家族が同伴している。家族が行けない時や緊急時は職員が行う。連携医療機関が近くにあり、必要な場合は介護サマリーを持参して適切な医療を受けられる支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の方の状態変化や異変に気付いた時には看護師に相談することで適切な診断で指示が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には自施設の看護サマリーや基本情報を提供し、入院中は状態把握できるように看護師やソーシャルワーカー等から情報をもらい連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化への対応、終末期における対応の指針の説明をし同意を頂いている。	ターミナルや延命治療等の方針は入居時に説明し、家族の考えは書面に残している。また、医療が必要な入居者には往診もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	自施設の勉強会で実践的な事も取り入れる事で職員が事故後の対応が速やかに出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルにはグループ施設との連携の仕方や職員の緊急連絡網を作成したり、自施設の訓練は定期的に行っている。	地域からの参加はないが、施設共同の訓練はしている。今年からは自然災害時の避難場所として地域住民を受け入れ、協力関係を築けるよう体制を整えている。	

【事業所名】グループホームあい楠見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の居室への訪室時には必ず声掛けをしたり、本人への言葉かけの内容によっては声を小さくし他者には聞こえないように努めている。守れていない職員があれば職員間で注意し合うように会議等で話し合いをしている。	一人ひとりを尊重し、入居者への声かけは低いトーンでゆっくりと話しかける。人生の先輩としての意識を忘れず、常に待つ姿勢のケアで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活では洋服選び、食事の希望等を入居者の方に聞きながら決定するよう働きかけている。本人が思いを表出しやすいように普段よりコミュニケーションを図り信頼関係が結べるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務に追われることなく入居者の状態により臨機応変に対応できるように話し合いを持っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は本人の好みを良く知る家族の方に準備して頂き、施設内では本人が自己決定できるように促すように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は個々の好みに応じれるようにしている。毎日のおやつは入居者の方の意見を聞きながら一緒に作るようにしている。毎月の誕生日会では普段のメニューにないような物を選び入居者の方に喜んで頂けるように努めている。	配食メニューは決まっているが、希望があれば変更は自由である。ご飯やみそ汁、おやつは入居者の意見を聞きながら、職員と一緒に作っており、アットホームな雰囲気を感じられる。	職員も同じ場所で同じ食事をし、入居者と共に楽しめるような環境作りを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定で栄養状態を確認しながら毎日の食事の状態や水分の状態をチェックしている。水分を拒否する方には飲みやすい物を考えながら摂取量を増やせるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声掛けで出来る人には促し、介助を要する方には介助し清潔を保持できるように促している。		

【事業所名】グループホームあい楠見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個々に排泄チェック実施し、排泄パターンを把握している。利用者の方の訴えや行動を観察しながらトイレでの排泄を目標に支援している。	尿意がない人の場合も他の入居者同様にトイレ誘導をし、続ける事により、排泄の習慣づけを促し、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常からの軽い散歩や体操を取り入れたり、水分摂取量をチェックし不足しがちな方には家族様に協力を頂き好みの飲み物を持って来て頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせて入浴の回数を決定している。曜日は決めているが当日の気分や体調により臨機応変に対応できるようにしている。	予め、曜日や回数を決めているが、体調次第で変更する場合もあり、血行促進の為に足浴での対応もしている。また、夕食後の夜間入浴は入居者の安眠に繋がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の方により明りの調整やエアコンのランプが気になり眠れない方にはテープを貼り安心できる環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬はホームで管理し、家族様との受診時に変更があれば状態の変化に気を配れるようにスタッフ間でも話し合っている。薬の説明書は保管しスタッフも目を通すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が出来る事や好むことを把握した上で個々に支援の仕方を考えている。又、楽しみや嗜好に関しては誕生日等の催し時に取り入れよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に応じられるように毎週実施するドライブ先を決定している。	入居者からの希望を聞き出し叶えられるように取り組んでいる。職員は入居者が懐かしく感じられる地域の資源を発掘、探索し、情報のアンテナを広げる努力をしている。	

【事業所名】グループホームあい楠見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行きたいとの要望があれば職員が付き添い行う。支払いは自己にて出来るように見守りと必要時には手助けをしながら援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話をしたいとの要望があればスタッフが介助して実施している。その場合は家族様と事前に話をしておき家族様に受け入れて頂いたうえで支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング以外の所にも利用者の方が別に座って過ごせる場所を作ったり、施設内が季節感を感じれるような飾りなどの工夫をしている。	リビングは広い部分と狭い部分2か所あり、家庭的で入居者にとって落ち着ける雰囲気になっている。廊下奥にはソファアも置かれ、一人ひとりになれる居場所の確保もされ、居心地のよさを工夫している。	リビングの飾りつけは入居者が懐かしく感じたり、自宅の延長と思えるしつらえなど、高齢者が居心地良く過ごせる共用空間を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の隅にソファを設置したり、リビング以外にもテーブルと椅子を設置し、利用者の方が気分次第でくつろげる場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使っていた物を持って来て頂いたり、写真を貼ったり、仏壇を置く事で落ち着いて過ごせる空間作りをしている。	使いなれた馴染みの物が持ち込まれ、畳での生活が落ち着く人への配慮もしている。ひとりの個性を尊重しながらその人らしく過ごせる工夫をしており、仏壇を置き心の支えとしての勤行を行う人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は歩行時の転倒リスクを考え環境作りをしている。又、ベット周辺は個々の動きに応じてポータブルの設置の仕方や周辺環境に工夫している。		